

## B 2 世界災害救急医学会 (WADEM) における「ういてまて」発表の報告 越智 元郎 (愛媛県・八幡浜市立八幡浜総合病院)

### 1. 緒言

世界災害救急医学会 (World Association for Disaster and Emergency Medicine、WADEM) 2025 年大会は、当初 2021 年に東京で開催される予定であったが、新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) 蔓延のため、2025 年に延期された。この延期により、WADEM のアジアでの開催は 2011 年の北京大会以来 14 年ぶり (日本での開催は 1999 年の大阪大会以来 2 回目) となった。この大会を「ういてまて」世界発信の好機ととらえ、2018 年西日本豪雨災害で自宅溺水の多数の犠牲者が生じたことを報告し、気候が激甚化し水害が増える今後に向けての対応方針として、水難学会の「ういてまて」の方法論を紹介した (演題名: Improved Flotation "Uitemate" as a Last Resort: Lessons Learned from Elderly Survivors and Victims of the 2018 Japanese Flood Disaster)。



### 2. 結果と考察

WADEM での発表は水難学会オンライン・シンポジウム (2021 年 3 月 26 日) での「2018 年西日本豪雨災害 (愛媛県・岡山県) と『ういてまて』」 (URL-1、QR コード左) を下敷きにした。また WADEM における発表の抄録 (URL-2、QR コード中) およびスライド原稿 (URL-3、QR コード右) は以下に示す通り。

URL-1 <https://plaza.umin.ac.jp/~GHDNet/f326.pdf>

URL-2 <http://plaza.umin.ac.jp/~GHDNet/25/j511-WADEM1.pdf>

URL-3 <http://plaza.umin.ac.jp/~GHDNet/25/j511-WADEM2.pdf>

気候温暖化型災害 (豪雨、洪水等) や地震災害に伴う水害の脅威は各国の救急災害医医療関係者に認識されているが、災害時の水難防止のための「ういてまて」の方法論については十分に知られていないとみられた。

水害関連の他演題としては以下が上げられ、その内容について水難学会会員と共有したい。

○Optimizing Emergency Responses for Self-Evacuation in Flood-Prone Regions of Poland: A Traffic Modelling Approach

○Addressing a Climate Emergency Amidst the COVID-19 Pandemic: A Qualitative Study on a Hospital Evacuation During the 2021 European Floods

○Red Cross/Red Crescent: Climate Change and Anticipatory Action

- Atsuko Tamai, Director, Disaster Prevention and Risk Reduction Division, Disaster Management and Social Welfare Department, Japanese Red Cross Society

- Yasuhiro Soshino (PhD), Head, Humanitarian Technology Unit, Disaster Management Research Institute (DMRI), Japanese Red Cross College of Nursing

さらに、演者のわが国における今後の活動の 1 例として、2025 年度に日本防災士会 (愛媛県支部南予ブロック) が関与して行う大津波想定避難訓練において、「ういてまて」の観点からライフジャケットや代用浮き具を準備し、安全な避難や垂直避難をはかることを住民に意識付けたい。